

いにしえの小径

伊勢・斎宮跡。伊勢神宮はここから始まったとも言われている。このいにしえの地に、できた新しいパーマネントコース。膨らむ期待感に応えるような安全快適コースがそこにあった。

大仏山コース
三重県 No.19 JOA公認 No.781
7km 10 ポスト

最新コース「大仏山」

現時点での最新コース、三重県「大仏山」を紹介します。

数多くのパーマネントコースが設置されていた三重県も、いまはわずか6コースが残るのみ。大半が閉鎖となるなかで、「関」コースが「関宿」コースとして生まれ変わり、「松阪」コースの代替として「中部台公園」コースが誕

生しました。そして、この「大仏山」コースは「玉城」コースの後継として2004年に開設されています。

旧「小俣町」が平成17年11月1日に「伊勢市」となり、この伊勢市と多気郡明和町、度会郡玉城町の3市町にまたがるエリアを巡る新コース。かつての「玉城」コースのエリアとも隣接しています。近鉄山田線「明野」駅に降り立ち、歩くこと20分余り。「県営大仏山公園管理事務所」前がスタート地点です。昭和63年に整備された比較的新しい施設で、野球場やテニスコース、ゲートボール場などが完備され、スポーツレクリエーションゾーンとして親しまれています。

マップを求めて事務所を訪ねると「地図はそこにあります」と、後方のテーブルを指し示してくれます。振り返るとそこには竹筒があり、その下にクリアファイルに収められた地図が置

かれていました。竹筒の上部には「オリエンテーリング地図代として1枚100円程度のご協力をお願いします」と記されており、貯金箱のような挿入口が切り込まれています。5枚頂いたので500円を挿入。カラーコピーのものながら、当初のマップにはなかった「100キロコンペ参加カード」も加わり、PCには通行可能度も入った、コース印刷済みの立派なマップです。事務所前の案内板にも鮮明なマスターが掲示されていて、管理状況は理想的。この案内板、旧「玉城」コースのものを流用したようで、うっすら「玉城」の文字が確認できます。

惜しむらくは、事務所や公園の案内図にオリエンテーリングについて告知されていないこと。せっかくの新設コースですから、誰の目にも分かるような宣伝が欲しいところです。





地図の料金はセルフサービスで

膨らむ期待

昨年はコース変更のなされた再訪コースばかりを歩いてきたため、全くの初挑戦コースは久々です。膨らむ期待感を抱きながら、13時34分にスタートしました。

まずは、駅から歩いてきた道を逆戻り。緩やかに舗装道路を下っていくと、右手に「大仏山」が見えてきます。「山」とは言っても標高は53メートルしかありません。散策路の入口から山頂までも、息が切れる間もなく到達します。小さな神社が現れ、すぐにポストも確認できます。大半のポストが「玉城」コースから移設されたもののようですが、最初のこのポストは新品で輝いています。

ここからの尾根道は両側に丸太のガイドがある快適なルート。木漏れ日が心地よく、森林浴には最適なところです。そのまま歩いて行くと「展望台広場」と名づけられた休憩施設に到達します。道路をくだり、突き当りを右手に進むと、足音が響き渡りそうな鉄製の階段がある「コーボ街路樹」という年季の入ったアパートがあり、その前に第2ポストが立っています。



第3ポスト発見！

第3ポストはとても簡単。山に沿って歩いていくと、耕作地の向こうに見える造成地帯の前に立つポストが早くも確認できてしまいます。造成はポストの目の前まで迫っており、撤去されてもおかしくないような状況。

本来の最短路であった「斎王参向古道」の入口は姿を消し、道標が寂しく放置されていました。そのため、いったん西に迂回。立ちふさがるガードレールの横をすり抜けてから、従来のルートに復帰します。「小俣町一般廃棄物最終処分場」の脇の小道を進み、「幸福寺霊園」横に続く舗装路を北西に向かいます。第4ポストのある池の向かいには巨大な建物があるはずでしたが、そこには広大な空き地が広がるばかり。建物を解体し、更地している最中の様子。池の端を回りこむと分岐に第4ポストが置かれています。

第5ポストは東に方向を転じ、更に池を目指します。ここはひっそりとした砂利道です。途中右手には千代田区一番町にある「㈱日本ウエルコ」なる会社の占有物件という空き地が現れます。どうやら「温泉を掘削するために占有している」ということのようにです。この区間の話題といえばこれくらいのもので、ほどなくポストに到達します。

「親林ハイキングコース」と名づけられた林間ルートに入ると、パーマナントコースムードは満点。森閑とした雰囲気になります。山から抜けると五分咲きの桜に迎えられて、春の訪れを実感。わかりやすい道路を下ると分岐に第6ポストが置かれています。

第7ポストまでは一直線。独特の広漠感のある一帯を進みます。果てしなく続いていきそうな真っ直ぐな道を歩いていくと、右手奥に鮮明なポストが見えてきます。小道との分岐のなんとなく中途半端な地点がポスト位置で、いずれ整備の手が入りそうなところでは。

さらにここから低木の合間を縫って坂を登り、中央広場を見下ろす展望台に到達。第8ポストを確認します。

すぐ下に公園管理事務所がある地点まで戻りながら、再度離れて第9ポストへ。芝生の上を歩き、テニスコートや「大仏山公園スポーツセンター」のグラウンドの横を抜けると吊橋に差し掛かります。この橋、「ボンゴシ」という木材で制作されたものだそうで、防腐処理が不要で松の2倍の強度を持つと

いう優れたもの。こんな豆知識を身に付けるのも、歩く楽しみのひとつです。橋を渡り、展望テラスへの階段を上ると、風吹きすさぶ丘の上でポストが待っていました。グラウンドを見下ろす位置にあり、実は遠くからでもばっちり確認できるところに立っています。

そして、最終ポスト。丘を下り、マウンテンバイクのコースを横断し、ゴリラなどの動物の像が点在する芝生の上を進みます。歩道から小道に入ると間もなく、木製のベンチ前でポストを確認。ほんの一瞬の林間を抜けて、ゴールへたどり着きます。

心地よい疲れとお菓子

所要1時間58分。ほどよい散策コースです。駅に戻る途中、行きがけに気になった「へんばや商店本店」に立ち寄り、名物といわれる「へんば餅」を購入。ほんのりと甘い餡子が入った柔らかなお餅で、歩いた後の疲れた体にはうってつけ。店内でお茶と一緒に食べることも可能です。この「へんば」という名は、江戸時代にお伊勢参りにきた人々がここで馬を帰し、歩いて伊勢へ向かったことに因んでつけられたそうです。創業1775年という老舗の味、ぜひご賞味ください。

短い編成の純行電車で伊勢市駅に戻り、明日予定している2コースに備えました。

安全快適な新コース。多くのオリエンティアを伊勢の地で待っています。

(2006年3月23日踏破 大高竜亮)

アクセス情報

県営大仏山公園管理事務所

近畿日本鉄道「明野駅」から徒歩約30分
伊勢自動車道「玉城IC」から約30分

